

小笠原長生 おがさわら ながせい 舊海軍軍人。慶應三年十一月～二十日江戸生れ、昭和二十二年九月～二十日歿（八七―一九六）。幼名賢之進・捨丸。號金液樓主人、金液生、鐵（鍊）櫻、須藤金液、鳳翼、源長生。暮庄長行たかしの長男。海軍兵學校卒。軍令部參謀、香取艦長、軍令部第三、第二班長等を経て、大正七年中將。のち宮中顧問官、學務院御用掛。子爵。文筆心長じた。

著書 『大日本帝國海上權力史講義』（明治二十七年九月十二日海軍大學校藏版、春陽堂）、『白鷺戦争軍事談片』（明治二十八年二月十八日春陽堂）、『乃木大將の面影』（合著、大正六年九月五日乃木會編輯）、『細熊手』（大正十一年六月十八日春陽堂）、『觀音物語』（大正十五年三月二十日春陽堂）、『東郷元帥詳傳』（二版・大正十五年七月五日春陽堂、忠誠堂發賣）、『鐵櫻漫談』（昭和二年十月一日早稲田大學出版部）、『愛國心』（猪狩又藏合著、昭和四年五月五日奉仕會出版部）、『思ひ出を語る』（昭和四年五月二十七日實業之日本社）、

『比戰軍事談片』（水野漢徳合著、昭和四年九月十日戰記名著刊行會『戰記名著集』）、隨筆『春うらゝか』（昭和六年四月五日實業之日本社）、『東郷平八郎傳』（昭和六年八月二十日改造社『偉人傳全集』）、

『明治天皇と近細亞聯盟』（昭和八年三月一日大亞細亞協會）、『大亞細亞協會趣意書並規約』（昭和八年三月一日大亞細亞協會）、

『書簡點描 偉人天才を語る』（昭和八年六月二十日實業之日本社）、『晩年の東郷元帥』（昭和九年九月五日改造社）、『東郷元帥』（昭和九年九月二十四日建設社『少年大日本史』）、『東郷元帥の偉業』（昭和十年四月海軍省）、『小笠原長生全集・第四卷―皇國海上權力史』

（昭和十一年九月十八日平凡社）、『大豪清水次郎長』（昭和十一年

皇國海上權力史 三 笠 物 語』

（昭和十一年九月十八日平凡社）、『大豪清水次郎長』（昭和十一年

皇國海上權力史 三 笠 物 語』

（昭和十一年九月十八日平凡社）、『大豪清水次郎長』（昭和十一年

皇國海上權力史 三 笠 物 語』

（昭和十一年九月十八日平凡社）、『大豪清水次郎長』（昭和十一年

皇國海上權力史 三 笠 物 語』

（昭和十一年九月十八日平凡社）、『大豪清水次郎長』（昭和十一年

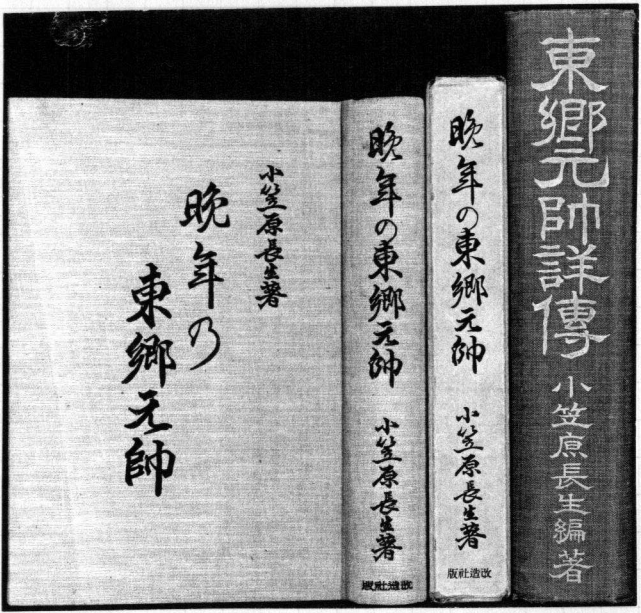
皇國海上權力史 三 笠 物 語』

（昭和十一年九月十八日平凡社）、『大豪清水次郎長』（昭和十一年

皇國海上權力史 三 笠 物 語』

（昭和十一年九月十八日平凡社）、『大豪清水次郎長』（昭和十一年

十一月十八日實業文日本社）、『東郷元帥言行録』（二十版・昭和十四年二月十五日三省堂）、『正傳 奥村五百子』（昭和十七年一月十五日南方出版社）、『幡隨院長共衛の生立ち』（昭和十七年五月二十二日秀文閣書房）、『小笠原長生と其隨筆』（原清編、昭和二十一年十月十五日小笠原長生八十九歳祝賀記念刊行会）等。



東郷元帥詳傳 小笠原長生編著

晩年の東郷元帥 小笠原長生著

晩年の東郷元帥 小笠原長生著

晩年の東郷元帥

小笠原長生著